

協働的な学びと個別最適な学びを実現するICTの活用

(授業の終末段階で GIFU WEB ラーニングの活用)

第6学年

場合の数(組み合わせ)

こんな子どもたちの姿が生まれました!

- 自分に合った追究方法(タブレットとノート)を選択して積極的に取り組む姿がありました。
- タブレットに表示された仲間の考え方と自分の考え方を比較しながら考察する姿がありました。
- 一人一人の学習状況に応じて練習問題に取り組む姿がありました。

協働学習支援ツールの活用による効果

素材となる図を全員に配付することで、タブレット上でも自分の考えを整理しやすくする。

- ・樹形図や記号の図を協働学習支援ツールの機能で全員に配付することで、タブレット上で試行錯誤したり、考え方を整理したりしやすくなる。



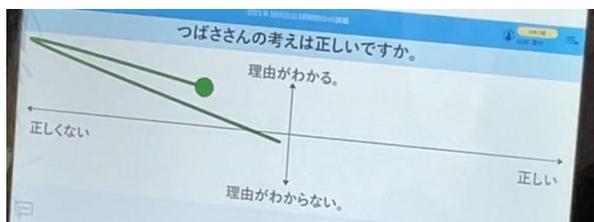
自分の考えと仲間の考え方を比較する。

- ・自分のタブレットに仲間の考えを表示して、仲間の話を聞くことで、自分の考えと比較ながら、自分の考え方をさらに整理させることができる。



学習過程を振り返り自分の成長を実感する。

- ・ポジショニング機能を用いて、自分の理解の状況を課題提示直後と課題解決後の2場面で明確にすることで、自分の成長を実感できる。



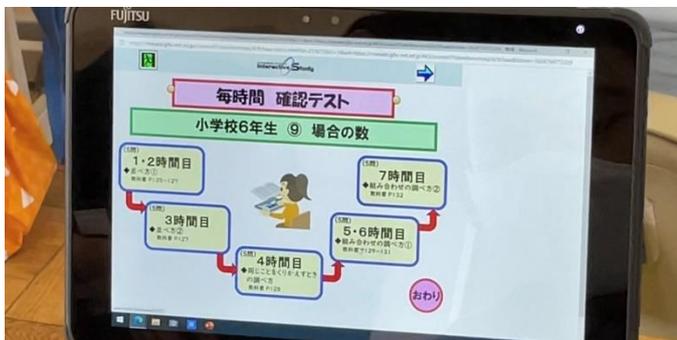
教師の指導のポイント

- 児童がコピーや貼り付けによる試行錯誤がしやすいように、樹形図などの素材を用意しておく。
- グループ交流する際には、全員が同じ画面を共有して、同時に書き込み等をしてもらい、よいことを伝えておく。

GIFU WEB ラーニングの活用による効果

終末の評価問題として、GIFU WEB ラーニングに取り組み、学習内容の定着を図る。

- ・課題解決した後、「GIFU WEB ラーニング『きょうのもんだい』に取り組み」一人一人の定着状況に応じて学びを進める。
- ・本時の内容を発展させた問題に挑戦したい児童は「チャレンジ問題」に取り組む。



教師の指導のポイント

- 岐阜県独自の「GIFU WEB ラーニング」教材には、自動採点・自動アドバイス機能が搭載されているので、児童は自分のペースで学習を進められる。教師は、丸付けの時間を省くことができ、困り感を抱えている児童に対して適切な指導をすることができる。
- 基本問題に加え、発展問題も用意してあるので、どの学力層の児童も主体的に取り組める工夫がされている。
- 学習結果は、自動で集計され、学級で一覧表示できるので、いつでも学級の学習状況を把握できる。